

# グループホーム わらい

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		前回より地域密着型の理念について、指摘があり、開設3年経過し、新しい理念については検討予定である。しかし重要事項説明書には地域との連携を記載している
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		今年度より町内会に加入し、行事や密な交流を図れる様に努めたい

## グループホーム わらい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	社会福祉協議会の呼びかけにて認知症サポーター養成講座にスタッフ・入居者様と参加し、地域のボランティアの養成のお手伝いをした。		社会福祉協議会の呼びかけにて、高齢者見守りサポーター養成研修のホーム内実習を受け入れ、スタッフ・ご入居者と対応予定にしている。その他もあれば実施予定にしている
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価後はミーティング時に報告し、対応方法を話し合い出来る事から行う様にしている。また、ファイルにしていづでも見られる様にしている。		今後の評価、指摘についても同様の対応をしていく
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、参加者が解り易い様にビデオや写真を利用し、状況報告をしている。意見や要望があれば、参考にして対応している。(防災や地域行事の意見があり対応をした)		会議時、意見や要望等あれば、その都度話し合い対応方法について検討していく
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護サービス相談員が定期的に訪問され、意見や指摘を受けるようにしている。また、困難事例などあれば介護保険課や地域包括支援センターに相談する事もある		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前は権利擁護利用者が居られ、理解しているスタッフもいるが、現在は利用者・必要のある方が無く話し合う機会も少なくなっている。		勉強会を利用し、制度や内容について理解出来る様にした。又外部での講習等あれば参加したい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を利用し行っている。また、いつでも見られる様にファイルにして保管している		

## グループホーム わらい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	内容説明、確認を十分に行い、納得された上でサインを頂いている		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	意見箱を設置しており、定期的に市の介護サービス相談員が訪問されており、意見や要望を聞く様になっている		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月の家族通信にて健康状態や暮らしぶりを報告。半年に一度のわらい通信にてスタッフを紹介している。また、面会時に報告する様になっている		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	意見箱の設置・面会時や推進会議時に意見を聞き、対応出来る様になっている。また、外部苦情申し立て機関は重要事項説明書に記載している。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月のミーティングを利用し意見を聞き、対応している		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	毎月のミーティング時に意見を聞き対応している。また、行事時の人員増員や受診・外出などには申し送り時確認しすぐに対応出来る様になっている		必要があれば随時検討していく
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	1・2ユニットでスタッフを固定せず、両ユニットで馴染みの関係が出来る様になっている。また、離職したスタッフとは定期的に連絡を取っている		

## グループホーム わらい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	採用については特に条件は無く、年齢・性別を理由に対象から排除することは無い。また、必要があれば各スタッフと個別面談を行う様にしている		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	勉強会を利用し行っている。また、接遇向上の為に外部講師を招き、6回/年の講習を実施した		今後、外部での人権等の研修あれば参加していく
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	段階に応じ、認知症実践者研修やその他研修に参加しており、研修後には勉強会を実施している。研修参加者については教育係又はリーダースタッフと話し合い決めている		今後も状況を確認しながら研修に参加していく
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	月1度、他のホームで行なわれている会議に参加し、意見交換会をしながら交流を図っている。数回ではあるが他施設見学や当ホームで見学を受け入れ、交流を図った		今後も他のホームでの見学や交流を図りネットワーク作りをしたいと思っている
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	コミュニケーションを取り、話を聞く様にしている。また、互助会が中心になり不定期だが食事会を行っている		

## グループホーム わらい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個別面談を行い、個々の目的を確認している		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	何度も面接を行い、相談記録や情報書を作成し把握出来る様になっている。また、体験入居も実践している		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記同様に何度も面接を行う様になっている。また、キーパーソン以外の方とも話をする様になっている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時、状態や希望を確認している。面接時は複数のスタッフで対応し、色々な視点で見られる様になっている。また、他の施設や病院等にも相談し対応している		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人・ご家族と面談を行い、体験入居をして頂き、場の雰囲気やスタッフ・他の入居者様を分かって頂き、納得した上で利用を開始している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人一人の時間を大切に、会話を多く取り家族として生活している。出来る事を一緒に行う様になっている。(生活目標を決める洗濯など)		

## グループホーム わらい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事にはご家族を招き、共に参加して頂いたり、面会時にはご本人と共に過ごせる雰囲気作りをしている		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前からの状態を出来る限り把握し、行事参加や希望があれば外出・外泊などご家族とご本人との仲介役になれる様に支援していく		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所(教会)など常に行ける様にしており、ご家族にもその旨を伝えいる。散歩時等に気軽に立ち寄れる様に声掛けしている		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事やレク活動時には交流が図れる様にしている。また、スタッフが間に入り孤立しない様に気を配っている		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	電話や訪問がしやすい様な声掛けを行い、関係を保つ様にしている。また、時折面会や電話連絡にて状況をお尋ねし、関係の維持に努めている		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式活用し、プラン変更時にはご本人・ご家族より意見を聞き対応している。リラックスして話が出来る様に入浴時等にも話をする様にしている		

## グループホーム わらい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやセンター方式を活用し行っている。また、ご本人やご家族とのコミュニケーションからの把握にも努めている		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式活用し把握に努めている。また、ケアプランとは別に個別援助を作成し運動・家事等の目標を決め実施している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議にてNS・CW・栄養士等スタッフの色々な意見を聞き作成する様にしている。必要な場合には病院に連絡を取ることもある		ご家族の方にはケアプランを説明し意見をもらっているが会議に参加出来るように考えて行きたい。しかし数名ではあるが参加頂いているご家族も出てきた
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度見直し、検討している。また状態変化や入院時などは随時見直しを実施している		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記入し申し送り又はミーティング時に話し合いを行っている。参加出来ないスタッフの為に日誌に特記・申し送りの欄を作り出勤時には確認する様にしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診等で家族の同行難しい場合はヘルパーステーション併設の為にヘルパーが同行したり、在宅介護の相談も受け付けている。又、希望食を聞き誕生月には希望される場所で食事を取るようにしている。		

## グループホーム わらい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月に3回ボランティア(歌・絵)を実施し、希望者は参加されている。また、年に2回は消防職員が来所され訓練を行っている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、他のサービスを利用されている方はいない		必要があれば随時検討していく
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月に1度の運営推進会議時には、地域包括支援センターの職員に必ず参加して頂おり、その他でも必要があれば連絡を取り協働出来る様に努めている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し希望される病院に受診して頂いている。特に無ければ協力病院を紹介している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご本人のかかりつけ医から紹介を受け、相談したり、また、協力関係にある精神科の相談員に相談等行い、受診出来る様に対応している		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護師が日常の健康管理に努めており、また、協力病院の看護師とも連絡をとりながら支援している。		

## グループホーム わらい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	相談員や医療連携室との情報交換や相談を行いながら、対応している。		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	同意書作成しており、ご本人・ご家族の看取りについての意見を確認している。また、協力病院とも連携を取り対応出来る様になっている		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	看取りの事前確認・指針を作成しており、内容をご家族と確認しており、対応を図る予定にしている。また、協力病院の先生にも了承を得ている。		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	自宅に戻られた方はいないが施設に移った方には次の施設と情報交換を行い、自宅・ホームで使い慣れた物を持って行く様に勧めた		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	各入居者の性格などを考慮した言葉かけや対応に努めている。また、記録等の個人情報保護は書類作成し確認・同意を得て対応している。		

## グループホーム わらい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	3ヶ月ごとのプラン見直し時に面談を行い、生活状況を確認し自己決定をして頂く様に努めている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れとして大まかには決めているが、買い物・散髪等の希望があれば当日勤務者で話し合い、希望に添える様にしている。また、無理強いせず、本人のペースに合わせて対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族・ご本人に確認しながら整容保持に努めており、希望される理美容店があれば行って頂く様にしている		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や片付けなど出来る事を行って頂く様にしている(生活目標作成している)。また、好きな者を食べて頂ける様に誕生日には希望の食事を提供している。		ご入居者・スタッフが共に食事を取る様にと前回指摘があったが介助者が多く難し状態である。今後の検討課題となる
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	火災防止の為に禁煙にしている。その他の物は医師より禁止されていなければ実施、支援している。		食べ物の持ち込み可能だが、誤嚥・食中毒等の事故予防の為に内容を確認している
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表作成し、パターンの把握に努め対応している。		

## グループホーム わらい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低でも週2回の入浴が提供出来る様に日時は決めているが、体調や希望に合わせて対応している。希望があれば毎日でも可能である		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居時の情報や新規入居時1ヶ月間は暫定プランとし生活状況の把握に努め、本人のペースで生活出来る様に支援している。また、不眠の方には生活リズムを整えたと共に医師に相談し、内服薬処方にて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご本人・ご家族からの情報をもとに趣味や役割を持って頂ける様にしており、個別援助目標を作成し実施している。また、絵手紙教室・歌・おやつクラブ等の趣味活動やレク活動を開催し楽しみごとを支援している		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に確認を取り、現金の所持又は預かり、希望時に買い物や月1度のパン販売時に使える様に支援している		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望・体調に合わせて散歩等行っている。また、誕生者は好きな物を外食出来る様にしている		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事として行っており、ご家族の参加も呼びかけている		

## グループホーム わらい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って対応している。電話はコードレス電話にてリビング・居室のどちらでも使用出来る様にしている		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決まっているが時間内であればいつでも行える様にしている。また、場所も希望した所で過ごして頂いている		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、身体拘束ファイル作成している		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	スタッフは弊害を理解し鍵をかけないケアを実行している。また、見守りやスタッフ間の声掛けにて安全にも注意している		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	近監視にて見守り、必要な場合は声掛けし行動を共にしている。また、特に注意が必要な方にはプランや特記事項として記入しスタッフの意識付けになる様にしている		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	状態を把握し、本人管理・スタッフ管理に別けている。また、保管場所もすぐに出せる場所や見える場所に保管している		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	状態を把握し、対応している。また、特に注意がいる方はプランに導入し、全体的にはマニュアル作成している		

## グループホーム わらい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	対応方法についてはマニュアル作成し、いつでも確認出来る様にしている。		定期的な勉強会を実施したい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	戸畑消防署・防火管理者指導の下に年に2回実施している。地域との協力・訓練はまだ実施していない		今年度より町内会に加入した、町内の状況を確認しながら協力が得られ様に連携して行きたい
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒など事故のリスクがある方はプランに導入しご家族へ説明・確認をして頂いてる。また、自宅での対応方法も聞く様にしている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック・健康チェックを実施、また、声掛けを行いながら異常の早期発見に努めている。異常時にはすぐに対応出来る様にかかりつけ医、連絡手順をカルテ表紙に貼付している		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の手帳・説明書を確認しており、用量については薬箱に記載し内服介助時確認してから介助を行っている。また、往診時には薬剤師の同行もありその都度説明を受けている		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の確認を行い、体操や水分補給を行っている。また、下剤以外にも食物繊維加工食品を利用し便秘対策に努めている		

## グループホーム わらい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っている。状態に合わせて声掛け・介助にて対応している。また、定期的に義歯の浸け置き洗浄をしている。必要がある場所は訪問歯科に依頼する時もある		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常勤の管理栄養士が献立を作成し、栄養バランスや摂取カロリーを把握し、また、食事量チェックも行っている。水分についても定期的に声掛けし対応。必要時にはチェックも行う様にしている		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ご入居者・スタッフ全員を対象とした予防接種実施。予防の為にスタッフ出勤時・ご家族面会時にはうがい・手洗いの実施。ホーム内の手すり等(手が触れる場所)消毒を行っている。また、マニュアル作成し、対応している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	管理栄養士指導の下に、衛生管理・食材の管理を行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入りやすい様に看板を置き、雰囲気作りをしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や飾り、ドアの壁紙にて季節感を取り入れる様にしている。また、目線の位置に飾りをする事により目隠しとなる様にしている。		

## グループホーム わらい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではソファや食卓で利用者同士好きな場所で自由に過ごせる様にしている。食事の際のみ介助の関係もあり指定している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使い慣れた物を持参する様に説明している。また、居室内の配置についてはご本人・ご家族に任せている		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングは時間を決め換気している。また、空気清浄機も設置し対応している。温度計を確認しながら温度管理にも努めている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内では各入居者に合わせベッドの高さの調整・柵を使用し対応している。また、リビング・居室共に転倒時の安全対策として床を絨毯にし、衝撃吸収出来るようにした		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	環境整備に努め、声掛けや見守りを行い出来るだけ行って頂く様にしている		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにて園芸を行い季節の花を楽しんでもらっている。また、出入りしやすい様に段差を少なくしウッドデッキに工事を行い移動しやすい様にもしている		

グループホーム わらい

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

## グループホーム わらい

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

管理栄養士が常勤にて勤務しており、バランスの摂れた食事を提供している。また、状態に合わせ食事形態を刻み・ミキサーなどを検討し提供している。 感染予防としてうがい・手洗いの他に毎日、消毒液にて手すり等の掃除を行っている